

調査研究業務受託（酒田市）報告書
「平成 30 年度酒田市観光に関する調査研究」

三木 潤一 （東北公益文科大学 公益学部）
小嶋 健太 （関西大学 経済学部）
川崎 雄二郎（京都学園大学 経済経営学部）

- 1 はじめに
- 2 アンケート調査内容
- 3 アンケート集計結果
- 4 離散選択モデルに基づく回帰分析
- 5 政策提言

1 はじめに

本受託研究の目的は、観光産業に関する市場に焦点を当て、酒田市民所得の向上につながる地域振興政策を提言することである。この目的を達成するため、酒田市を訪れる観光客に対するアンケート調査を実施し、とりわけ実証産業組織論の分野で発展してきた離散選択モデルに基づく手法を応用するなどして、酒田市においてどのような政策介入が観光産業に資するかについて検討する。

2 アンケート調査内容

本受託研究におけるアンケート調査は、酒田市（アンケート調査実施場所である後述の市内 7 箇所）を訪れる観光客を対象として、2018 年 10 月 6 日（土）・7 日（日）・8 日（月・祝日）・13 日（土）・14 日（日）に実施した。調査実施場所は、JR 酒田駅と、著名な観光スポットとして、山居倉庫、さかた海鮮市場、相馬樓、土門拳記念館、満月（酒田ラーメン店）、玉簾の滝を選択している。延べ 54 名の調査員を各調査地点に配置して調査票を配付し、958 通の回答を得た。調査票は、本章 2-7 頁に示す通りである。また、本アンケート調査の実施については、東北公益文科大学の研究倫理審査において、承認の判定を受けている。

アンケート調査へのご協力をお願い

—酒田市観光動向調査—

酒田市の観光動向を把握するための重要な調査です。

所要時間は 5分程度、個人を特定する情報は取得しません。

酒田市では、今後の観光振興の参考資料とさせて頂くため、酒田市における観光の動向について調査を行っています。あなたの居住地域や、今回の旅行の訪問先、旅行に使った費用等についてお聞きするものです。回答は5分程度で終了し、氏名や住所等、個人を特定する情報は取得いたしませんので、何卒ご理解頂き、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

調査主体 : 酒田市
調査実施機関 : 学校法人 東北公益文科大学
(電話番号 0234-41-****)

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、今回のあなたの旅行についてお伺いするものです。
- 各質問に対して、あてはまる選択肢の番号を○で囲むか、もしくは、あてはまる地名、数字及びご意見等をご記入下さい。
- あてはまる選択肢の番号を○で囲む場合は、質問の文末の「それぞれ1つだけ」「いくつでも」に注意の上ご記入下さい。
- 選択肢の「その他」をお選びの場合は、() 内にその内容を具体的にご記入下さい。
- 各観光地点間の移動に複数の交通手段を利用した際は、最も長く利用した手段をご記入下さい。
(Q6)
- 旅行費用については、今回の旅行で「今まで使った費用」と「これから使う費用」を併せてご記入下さい。また1人当たりの費用をお答え下さい。(Q4)
- その他、不明な点がありましたらお近くの調査員にお問い合わせ下さい。

Q1. 今回の旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス	2. 観光	3. 買い物	4. イベント参加
5. 食事	6. 帰省・知人訪問	7. (1～6のどれでもない) その他	

Q2. Q1で「2. 観光」を選択された方にお伺いいたします。観光地として酒田市を訪問した主な理由は何ですか。※1つだけ

1. 酒田市に魅力的な観光地があったため (具体的な観光地名: _____)
2. 主要な目的は酒田市以外の観光地であるが、近隣に酒田市があったため
3. 交通乗り換え時間をつぶすため
4. その他 (_____)

Q3. Q1で「2. 観光」を選択された方にお伺いいたします。今回の旅行の目的地を選択してください。※1つだけ

1. 酒田市のみ	2. 庄内地方周遊	3. 山形県内周遊	4. 山形県・新潟県周遊
5. 山形県・秋田県周遊	6. 山形県・宮城県周遊	7. 東北地方周遊	8. 日本海側周遊
9. その他 (_____)			

Q4. 今回の旅行で、酒田市で使う一人当たりの費用 (これから使う予定も含めて) を選択してください。
また、今回訪れた観光地・召し上がった食事の評価を教えてください。
※交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、市内分をご記入ください。

	費用番号	その他
①交通費		
②宿泊費		<宿泊した市内の施設を選んでください> 1. 実家や知人・親戚宅 2. 旅館 3. ホテル 4. ペンション・民宿 5. 保養所・研修所 6. キャンプ場 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 8. 別荘・リゾートマンション 9. 会員制の宿泊施設 10. その他 (_____)
		<宿泊した市内の施設名を教えてください> 宿泊施設名 : _____ 宿泊数__泊 宿泊施設名 : _____ 宿泊数__泊 宿泊施設名 : _____ 宿泊数__泊
		<今回の旅行の総宿泊数を教えてください> _____ 泊

【一人当たり費用選択肢】 ※該当する番号を表の費用番号へ記入してください。

- | | | | |
|-------------------|---------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 0円 | 2. 1～499円 | 3. 500～999円 | 4. 1,000～1,999円 |
| 5. 2,000～3,999円 | 6. 4,000～5,999円 | 7. 6,000円～9,999円 | |
| 8. 10,000～19,999円 | 9. 20,000円～49,999万円 | 10. 50,000円～99,999円 | 11. 10万円以上 |

☆☆ 次のページに続きます。☆☆

	費用番号	その他																					
③土産代		(具体的なお土産内容 _____)																					
④飲食費		〈酒田市で召し上がった食事内容と費用、食事の評価を教えてください〉																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>食事内容</th> <th>費用番号</th> <th>評価番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラーメン・ワンタンメン</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>寿司・海鮮丼</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フランス料理</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 ()</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	食事内容	費用番号	評価番号	ラーメン・ワンタンメン			寿司・海鮮丼			フランス料理			その他 ()								
		食事内容	費用番号	評価番号																			
		ラーメン・ワンタンメン																					
		寿司・海鮮丼																					
フランス料理																							
その他 ()																							
⑤入場料		〈訪れた場所とそこで消費した費用、場所の評価を教えてください〉																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>観光地番号</th> <th>費用番号</th> <th>評価番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 ()</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 ()</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	観光地番号	費用番号	評価番号													その他 ()			その他 ()		
		観光地番号	費用番号	評価番号																			
その他 ()																							
その他 ()																							
⑥その他																							
⑦パック料金		〈どちらかにチェックをつけてください。〉 <input type="checkbox"/> 市内分のみ <input type="checkbox"/> 市外分含む																					

【一人当たり費用選択肢】 ※該当する番号を表の費用番号へ記入してください。

1. 0円 2. 1～499円 3. 500～999円 4. 1,000～1,999円
5. 2,000～3,999円 6. 4,000～5,999円 7. 6,000円～9,999円
8. 10,000～19,999円 9. 20,000円～49,999円 10. 50,000円～99,999円 11. 10万円以上

【評価】 ※該当する番号を表の評価番号へ記入してください。

1. 大変満足 2. 満足 3. 普通 4. 不満 5. 大変不満

【観光地番号】 ※該当する番号を表の観光地番号へ記入してください。

●市街地エリア	●川南エリア	●八幡エリア
1 山居倉庫 (酒田夢の倶楽)	15 土門拳記念館	29 八森温泉ゆりんこ
2 山居倉庫 (庄内米歴史資料館)	16 酒田市美術館	30 八森自然公園
3 本間家旧本邸	17 出羽遊心館	●眺海の森エリア
4 酒田市立資料館	18 南洲神社	31 眺海の森さんさん
5 旧燈屋	19 蔵探訪館 (初孫酒造資料館)	32 森林学習展示館
6 舞娘茶屋相馬樓	●飛鳥エリア	●松山エリア
7 山王くらぶ	20 海づり公園	33 松山歴史公園 (大手門)
8 海向寺 (即身仏堂)	21 とびしまマリンプラザ	34 松山文化伝承館
9 日和山公園	22 遊覧船 ※定期船とびしまではない	35 總光寺
10 さかた海鮮市場	23 釣り船	●平田エリア
11 オランダせんべいFACTORY	●鳥海山エリア	36 アイアイひらた
●駅前・寺町エリア	24 玉簾の滝	37 十二滝
12 本間美術館	25 鳥海高原家族旅行村	●その他
13 浄福寺 (唐門)	26 湯の台温泉鳥海山荘	38 その他 ()
14 酒田あいおい工藤美術館	27 鶴間池	
	28 鳥海山 (湯の台登山口)	

☆☆ 次のページに続きます。☆☆

Q5. 酒田市内に宿泊されない方にお聞きします。今回の旅行では酒田市内にどの位滞在する予定ですか。

※1つだけ

1. 1時間以内	2. 1時間以上～2時間以内	3. 2時間以上～3時間以内
4. 3時間以上～4時間以内	5. 4時間以上～5時間以内	
6. 5時間以上～6時間以内	7. 6時間以上（具体的に	時間程度)

Q6. 今回の旅行で訪れた酒田市内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。

※観光地は下の一覧表より、交通機関は右表より番号をお選び下さい。

【表】交通機関

①飛行機 鉄道 (②山形新幹線 ③上越新幹線 ④それ以外) ⑤路線・巡回バス
 ⑥貸切バス・観光バス ⑦高速バス
 ⑧タクシー・ハイヤー ⑨レンタカー
 ⑩自家用車、社用・公用車 ⑪徒歩
 ⑫観光自転車 ⑬船
 ⑭その他 ()

●市街地エリア

1	山居倉庫 (酒田夢の倶楽)
2	山居倉庫 (庄内米歴史資料館)
3	本間家旧本邸
4	酒田市立資料館
5	旧燈屋
6	舞娘茶屋相馬樓
7	山王くらぶ
8	海向寺 (即身仏堂)
9	日和山公園
10	さかた海鮮市場
11	オランダせんべいFACTORY

●駅前・寺町エリア

12	本間美術館
13	浄福寺 (唐門)
14	酒田あいおい工藤美術館

●川南エリア

15	土門拳記念館
16	酒田市美術館
17	出羽遊心館
18	南洲神社
19	蔵探訪館 (初孫酒造資料館)

●飛島エリア

20	海づり公園
21	とびしまマリンプラザ
22	遊覧船 ※定期船とびしまではない
23	釣り船

●鳥海山エリア

24	玉簾の滝
25	鳥海高原家族旅行村
26	湯の台温泉鳥海山荘
27	鶴間池
28	鳥海山 (湯の台登山口)

●八幡エリア

29	八森温泉ゆりんこ
30	八森自然公園

●眺海の森エリア

31	眺海の森さんさん
32	森林学習展示館

●松山エリア

33	松山歴史公園 (大手門)
34	松山文化伝承館
35	總光寺

●平田エリア

36	アイアイひらた
37	十二滝

●その他

38	その他 ()
----	---------

一覧以外で観光したところ、または、これから観光するところがありましたらお書き下さい。

☆☆ 次のページに続きます。☆☆

Q7. あなたも含めて何人での旅行ですか。また、2人以上の場合は、どなたと一緒に旅行ですか。

※子供や乳幼児も含む

() 人
2人以上の場合
→ 1. 家族 (夫婦で・子供と・親と・兄弟と・その他家族や親族) 2. 友人・知人
3. 恋人 4. 職場・学校等の団体旅行 5. その他

Q8. 酒田市への訪問は何回目ですか。あなたも含めて、ご一緒のみなさん全員の酒田市への訪問回数をお書きください。※それぞれ1つだけ

1. あなたの訪問回数 () 回目
2. <u>同行者の訪問回数</u> →1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. 2回目以上の方にお伺いいたします。酒田市へのこれまでの訪問はどの季節でしたか。※1つだけ

1. 1～3月 2. 4～6月 3. 7～9月 4. 10～12月
5. 決まった時期はない

Q10. あなたは今回の旅行において、酒田市の情報をどこから入手されましたか。※いくつでも

1. ガイドブック 2. 旅行専門雑誌 3. パンフレット 4. 新聞・雑誌
5. テレビ・ラジオ 6. 家族・友人の話 7. 旅行会社 8. 観光案内所
9. インターネット (パソコンを経由) 10. インターネット (スマートフォン・携帯電話から)
11. SNS (Facebook / Twitter / Instagram / 人人網 など)
12. その他 ()

Q11. あなたは今回の旅行の手配を何で行いましたか。※1つずつ

※インターネットには、旅行代理店、交通機関が提供するインターネットサービスを含みます。

交通機関：
1. 旅行代理店 2. インターネット 3. 交通機関で直接購入
4. その他 ()
宿泊施設：
1. 旅行代理店 2. インターネット 3. 宿泊施設に直接申し込み
4. その他 ()

☆☆ 次のページに続きます。☆☆

Q1 2. あなたは今回の酒田市への旅行において、どのくらい満足していますか。※1つだけ

- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 1. 大変満足 | 2. 満足 | 3. 普通 | 4. 不満 |
| 5. 大変不満 | | | |

Q1 3. 酒田市へまた来たいと思いますか。※1つだけ

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 必ず来たい | 2. 来たい | 3. 何ともいえない |
| 4. 来たくない | 5. 絶対来たくない | |

Q1 4. 酒田市に対するイメージがありましたら、ご記入ください。

--

Q1 5. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、山形県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名： _____)	海外の場合 (国名： _____)
└─ 山形県内の場合 └─> (市町村名 _____)	

Q1 6. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別	: 1. 男性	2. 女性		
年齢	: 1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳以上

Q1 7. あなたの世帯の昨年の収入額を選んでください。※1つだけ

※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた金額を選択してください。

1. 収入なし	2. 1円～299万円	3. 300万円～599万円
4. 600万円～899万円	5. 900万円～1,199万円	6. 1,200万円以上

Q1 8. あなたの職業についてを選んでください。※それぞれ1つだけ

職業	: 1. 農業、林業、漁業	2. 自営業	3. 会社員、公務員、団体職員	4. 会社役員
	5. 学生	6. 無職		

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆

調査地点	調査年月日	調査時刻	天候
		:	

3 アンケート集計結果

本章では、アンケート調査によって得られた集計データを基に酒田市観光の実態について報告を行う。前半では、旅行者の満足度および再来訪意向を主軸にしたクロス集計の結果を見ていき、後半では、旅行者の訪問ルートネットワーク（グラフ）として可視化し、性別、世帯年収、年齢の各区分に属する旅行者の傾向について考察する。

3. 1 旅行者の個人属性（性別、年齢、世帯年収、旅行の目的）

まず初めに、回答者の性別、年齢、世帯年収、旅行の目的の分布について見ていく。それぞれを示したものが図表 3-1 から 3-4 である。図表 3-3 の横軸に記された各数値（単位は百万円）は、アンケートにおいて選択肢として設けられた世帯年収の区分「0 円」、「1 円～299 万円」、「300 万円～599 万円」、「600 万円～899 万円」、「900 万円～1199 万円」、「1200 万円～」の中間値であり、各区分を表す代表値として用いている（「1200 万円～」に関しては中間値をとれないので、他の中間値との間隔が等しくなるように「135000」を採用した）。

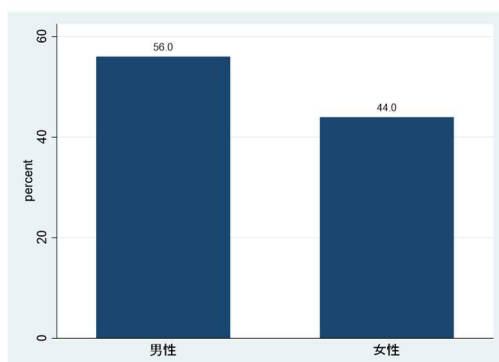
性別は男性の割合の方がわずかに多く、また年齢は 50 歳代を中心とした中高年の層（40 歳代～60 歳代）が全体の 6 割以上を占めている。世帯年収については、厚生労働省が平成 29 年に実施した国民生活基礎調査に基づく所得の分布状況¹と比較すると、「150000」つまり「1 万円～299 万円」と答えた割合がやや小さく、相対的に 300 万円以上の割合が大きいという結果になった。また、旅行の目的に関しては、観光のために酒田市を訪れている旅行者が圧倒的に多いことが明らかとなった。

3. 2 満足度・再来訪意向・訪問回数

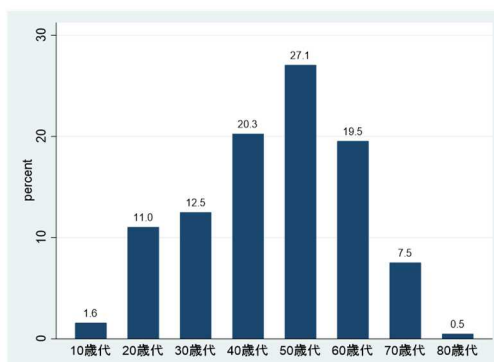
酒田市への旅行に対する満足度、再来訪意向、訪問回数の分布を図表 3-5 から 3-7 に示す。満足度の数値はそれぞれ「5」が「大変満足」、「4」が「満足」、「3」が「普通」、「2」が「不満」、「1」が「大変不満」、再来訪意向の数値はそれぞれ「5」が「必ず来たい」、「4」が「来たい」、「3」が「何ともいえない」、「2」が「来たくない」、「1」が「絶対来たくない」を表している。アンケートでは訪問回数について数値以外で回答した人が多く、「数回」、「複数」

¹ 「第Ⅱ部 2章 所得の分布状況」、国民生活基礎調査の概況、平成 29 年版、厚生労働省、2018 年、<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa17/dl/10.pdf>（参照 2019-3-16）

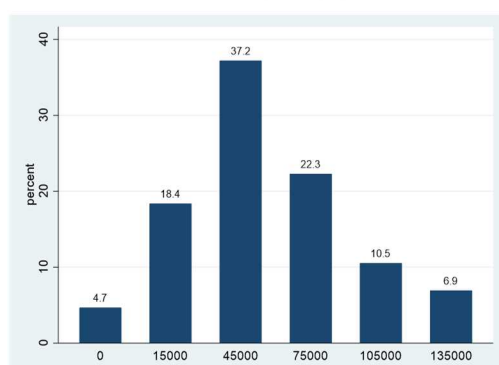
図表 3-1 性別



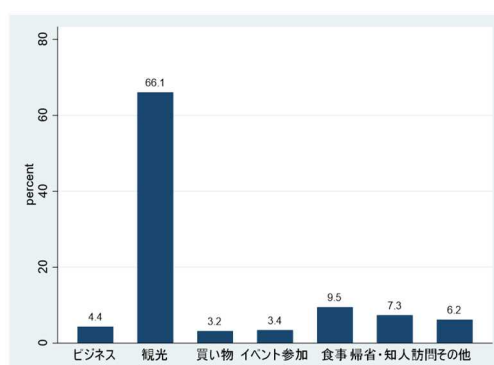
図表 3-2 年齢



図表 3-3 世帯年収



図表 3-4 旅行の目的



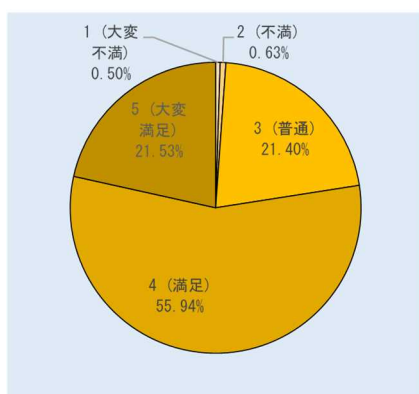
などの回答は「3回」に、「たくさん」、「数えきれない」、「昔住んでた（原文ママ）」などの回答は「10回以上」に含めることとした。

満足度・再来訪意向の特徴としてまず挙げたいのが、どちらにおいても「4」以上の好評価が多い点である。満足度・再来訪意向ともに「2」以下を答えた回答者が全体の1%ほどであるのに対し、満足度について「4」以上を答えた回答者が全体の約77%、そして再来訪意向について「4」以上を答えた回答者が全体の約87%を占めている。

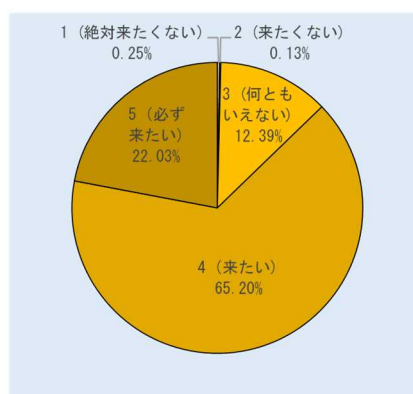
訪問回数については、「2回」～「5回」と答えた回答者の割合（全体の約41%）が「1回」と答えた回答者の割合を上回っており、「酒田ファン」とも呼べるリピーター客の存在がうかがえるが、「6回」～「9回」と答えた回答者は急激に減少している（全体の約4%）。この結果について、ポジティブ面（旅行者が最近になって増加した等）とネガティブ面（回を重ねた結果見どころがなくなってしまった等）の両面から様々な原因が考えられるが、それらの真偽を確かめるためには追加の調査を実施する必要がある。

酒田市に良い印象を持って再び訪れるリピーター客が含まれているのであれば、図表 3-5, 3-6において好意的な評価が際立つのは当然の結果ともいえる。そこで、訪問回数別の満足度および再来訪意向を表したクロス集計表（それぞれ図表 3-8, 3-9を参照）を用いて、複数回訪れた人々のグループと初めて訪れた人々のグループを切り分けて見ていく。推測した通り、複数回訪れている（「2回」以上と回答した）旅行者の評価は満足度・再来訪意向ともに「4」以上に集中していることが見て取れる。

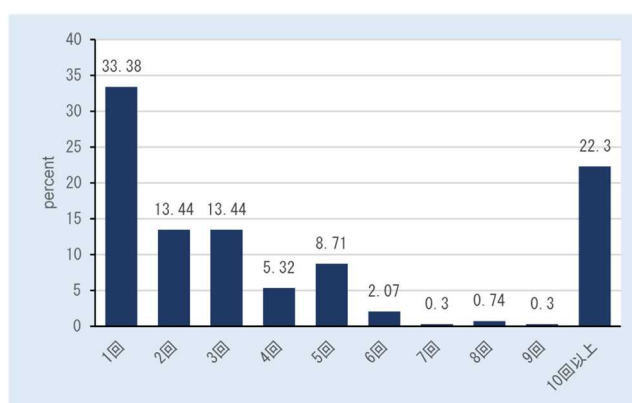
図表3-5 旅行に対する満足度



図表3-6 酒田市への再来訪意向



図表3-7 酒田市への訪問回数



一方、「1回」と答えた旅行者（図表3-8、3-9中の網掛け部分）は、満足度に関して全体の結果とほとんど差が見られなかったが、再来訪意向に関しては全体の結果と比べてわずかに低評価の割合が多い結果となった。それでも、「4」以上の再来訪意向を示した回答者は全体の約75%を占め、依然として高い水準を維持している。

3.3 観光地と満足度の関係

各観光地とそこを訪れた観光客の満足度の関係を見るため、調査の時点ですでに訪れていた回答者が多かった12か所の観光地に対し、調査の時点までにそこに行った回答者のグループ（以下、「行ったグループ」と呼ぶ）と行っていない回答者のグループ（以下、「行っていないグループ」と呼ぶ）の満足度の分布、平均値、分散値（不偏分散）、サンプル数を示した表を図表3-10に示す。調査時点以降に行く予定があると答えた回答者については、まだ当該の観光地を訪れたことによる効果を受けていないということで「行っていない」グループに含めることとした。

表を見る限りで全体の傾向として挙げられるのは、海鮮市場と玉簾の滝を除くすべての観光地において、「行った」グループに属する回答者全員が「3」以上の評価をしている点で

図表 3-8 訪問回数別の満足度

	満足度					計
	1	2	3	4	5	
1回	0.9	0.45	23.01	53.12	22.56	100
2回	0	2.23	23.07	61.53	13.17	100
3回	0	0	16.52	62.65	20.91	100
4回	0	0	25	55.45	19.36	100
5回	1.72	0	23.77	50.86	23.77	100
6回	0	0	7.25	57	35.75	100
7回	0	0	0	100	0	100
8回	0	0	0	40.54	59.46	100
9回	0	0	0	100	0	100
10回以上	0	0.67	21.21	53	25.16	100
全体	0.44	0.59	21.27	55.69	22.01	100

図表 3-9 訪問回数別の再来訪意向

	再来訪意向					計
	1	2	3	4	5	
1回	0.89	0.44	22.22	62.67	13.78	100
2回	0	0	18.48	67.39	14.13	100
3回	0	0	8.42	72.63	18.95	100
4回	0	0	0	69.44	30.56	100
5回	0	0	8.47	57.63	33.9	100
6回	0	0	7.14	50	42.86	100
7回	0	0	0	100	0	100
8回	0	0	0	40	60	100
9回	0	0	0	100	0	100
10回以上	0	0	6.58	60.53	32.89	100
全体	0.29	0.15	13.34	63.93	22.29	100

ある。しかし、満足度の平均値や分散値を見比べるだけでは、「行った」グループと「行っていない」グループとの差がわずかであることもあり、両グループ間の違いは判然としない。そこで以下では、統計学的手法を用いることによって、両グループの平均と分散の差の有意性（等平均性および等分散性）について検証していく。

等平均性の検定は、比較する両グループに等分散性が認められるか否かによって検定の方法が異なるため、あらかじめ等分散性についての検証を済ませておかななくてはならない。そこで、各観光地の「行った」グループと「行っていない」グループに対して5%の有意水準でF検定を実施したところ、山居倉庫（酒田夢の倶楽）、鳥海山（湯の台登山口）、オランダせんべいFACTORYで有意な差が認められ、これらの観光地に関しては「行った」グループの分散が「行っていない」グループよりも有意に小さいという結果が得られた。

続いては、等平均性の検定である。先述の分散の差に関する検定結果に基づき、山居倉

図表 3-10 主な観光地に行ったグループ・行っていないグループの満足

山居倉庫（酒田夢の倶楽）	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0.37	17.91	58.58	23.13	4.04		0.42	268
	行っていない	0.75	0.75	23.03	54.49	20.97	3.94		0.54	534
海鮮市場	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0.52	0.52	23.2	51.55	24.23	3.99		0.54	194
	行っていない	0.49	0.66	20.72	57.24	20.89	3.97		0.49	608
玉簾の滝	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0.87	0.87	15.65	61.74	20.87	4.01		0.48	115
	行っていない	0.44	0.58	22.27	54.88	21.83	3.97		0.5	687
土門拳記念館	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	20.2	57.58	22.22	4.02		0.43	99
	行っていない	0.57	0.71	21.48	55.62	21.62	3.97		0.51	703
山居倉庫（庄内米歴史資料館）	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	2.13	17.02	53.19	27.66	4.06		0.54	47
	行っていない	0.53	0.53	21.59	56.03	21.32	3.97		0.5	755
本間家旧本邸	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	11.76	70.59	17.65	4.06		0.3	34
	行っていない	0.52	0.65	21.74	55.21	21.88	3.97		0.51	768
相馬楼	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	12.12	66.67	21.21	4.09		0.34	33
	行っていない	0.52	0.65	21.72	55.4	21.72	3.97		0.51	769
鳥海山（湯の台登山口）	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	0	70	30	4.3		0.22	20
	行っていない	0.51	0.64	21.87	55.5	21.48	3.97		0.5	782
日和山公園	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	12.5	75	12.5	4		0.27	16
	行っていない	0.51	0.64	21.5	55.47	21.88	3.98		0.51	786
酒田市美術館	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	41.67	33.33	25	3.83		0.7	12
	行っていない	0.51	0.63	21.01	56.2	21.65	3.98		0.5	790
オランダせんべいFACTORY	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	18.18	81.82	0	3.82		0.16	11
	行っていない	0.51	0.63	21.37	55.5	22	3.98		0.5	791
本間美術館	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	行った	0	0	28.57	14.29	57.14	4.29		0.9	7
	行っていない	0.5	0.63	21.26	56.23	21.38	3.97		0.5	795
全体	1	2	3	4	5	平均値	分散値	サンプル数		
	全体	0.5	0.62	21.32	55.86	21.7	3.98		0.5	802

庫（酒田夢の倶楽）、鳥海山（湯の台登山口）、オランダせんべい FACTORY の 3 か所については「行った」グループと「行っていない」グループの分散が異なると仮定して Welch の t 検定を、また上記以外の観光地については両グループの分散が等しいと仮定して通常の t 検定を 5%の有意水準で実施した。その結果、山居倉庫（酒田夢の倶楽）、鳥海山（湯の台登山口）において「行った」グループの方が満足度の平均が有意に高いことが分かった。

この結果に関して、「選択バイアス」と呼ばれる集計上の偏りについて触れておかなければならない。今回のアンケート調査の対象者である各旅行者は、自分自身で訪れる観光地を選択しており、当該観光地に「行った」グループと「行っていない」グループとの間で選好などの特性に差が生じている可能性がある。平たく言えば、当該観光地に行きたいから行った人々とそうでない人々に分かれていることに留意しなくてはならない。それに伴い、各観光地における「行った」グループと「行っていない」グループの間での条件の違いが単に「その観光地に行ったかどうか」のみであるとは限らない点にも気をつける必要がある。両グループに属する回答者に選好などの差が存在するのであれば、他に訪れる観光地に偏りが生じている可能性があり、仮に両グループの間になんらかの違いがあることが認められても、その原因を当該観光地のみを求めることはできないのである。ただ、一つの見方として、「行った」グループと「行っていない」グループの比較はそこを通る訪問ルートと通らない訪問ルート間の比較であるととらえることもできる。よって、両グループの違いが見られた場合には「当該観光地を巡るコースを選んだ回答者とそのようなコースを選ばなかった回答者との間で、訪れたすべての観光地に対する総合的な満足度に差がある」と結論付けるべきである。

したがって、上述の結果が当該観光地のみ起因すると言えないが、少なくとも、当該観光地ならびにそれと併せて利用される傾向の強い観光地・観光資源の中のいずれかが満足度向上に強い効果をもたらしていることは考えられる。

以上より、分析結果は次の 2 点にまとめられる。一つは、12 か所の主な観光地のうち、山居倉庫（酒田夢の倶楽）と鳥海山（湯の台登山口）を通る訪問ルートを選んだ人々の満足度が平均的に高いということ、そしてもう一つは、オランダせんべい FACTORY を通る訪問ルートを選んだ人々の満足度は、それを選ばなかった人々と比べて平均的には違いが見られなかったものの、ばらつき具合は小さく抑えられており、さらに満足度の平均値が 4 に近いことを考えれば比較的高い評価に回答が集中しているということである。今回の分析を通して、これらの原因つまりは満足度の向上に強い効果をもたらす要因の特定には至っていない。しかし、今回の結果が足掛かりとなって、追加的な調査および調査方法の改良を実施して原因を究明することができれば、酒田市観光事業の重点化・効率化をさらに推進させるという意味で貢献は決して小さくないと考える。

観光地ごとに上記以外の主な観光地である海鮮市場、玉簾の滝、土門拳記念館、山居倉庫（庄内米歴史資料館）、本間家旧本邸、相馬楼、日和山公園、酒田市美術館、本間美術館において平均や分散の有意な差が認められなかった点については、これらを通る訪問ルート

がそれ以外の訪問ルートと比較して満足度に違いがないということを示すものであるため、悲観的にとらえるべき結果ではない。

3. 4 旅行者の訪問ルート

本節では、旅行者がどのような訪問ルートをたどって観光地を訪れているか、またさらには旅行者の属性によって訪問ルートの選択に傾向の違いがあるかを見ていく。分析にあたっては、各回答者が調査の時点までに訪れた観光地とそれ以降に訪れる予定であった観光地、および、それらを訪れる順番のデータを基に訪問ルートを再現し、それをグラフとよばれるネットワーク構造の形式で図示することによって、視覚的に傾向をとらえる方法をとる。

はじめに、全回答者の訪問ルートを表したグラフを図表 3-11 に示す。図の中にある各点は観光地を表し、エリアごとに分けて配置した。任意の 2 点の間に引かれる線分（以下、「辺」）は 2 点のどちらか一方を始点とし他方を終点とする（ほかの地点を経由しない）移動を表す。したがって、たとえば 1 か所目に A、2 か所目に B、3 か所目に C を訪れる訪問ルートは、グラフ上には A と B を表す 2 点間および B と C を表す 2 点間のみに辺を記すことで表現される。各辺はそこを移動した回答者の数が多いほど太く、また各点はその点からあるいはその点へ移動した回答者の総数が多いほど大きく表示される。おおまかには、各辺の太さはそれを通った人数、各点の大きさはそれを訪れた人数を反映していると理解することもできる。

図表 3-11 から、旅行者は市街地エリアを中心に各エリアにアクセスしている様子が見え、市街地エリアの山居倉庫（酒田夢の倶楽）と海鮮市場、川南エリアの土門拳記念館、駅前・寺町エリアの本間美術館、鳥海山エリアの玉簾の滝や鳥海山（湯の台登山口）などが各エリアの玄関口になっていることが分かる。とりわけ、山居倉庫（酒田夢の倶楽）が他の観光地からのアクセス数が多い点を考慮すると、酒田市内の旅行においていわばハブのような役割を担っていることが分かる。

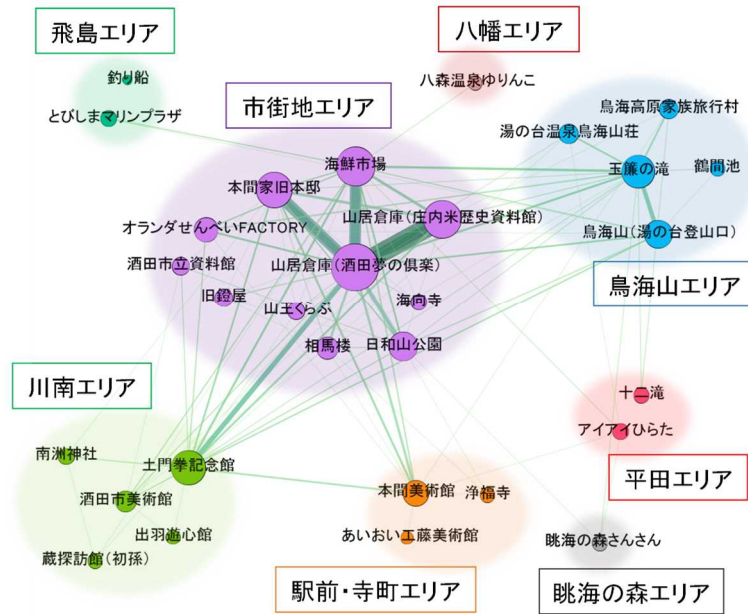
3. 4. 1 男女別の訪問ルート

男女別の訪問ルート選択の様子を図表 3-12 に示す。各辺の太さはそこを移動する回答者の数を表すが、男女間でサンプルサイズの差がある点に配慮し、総移動数が男女ともに 100 になるように辺の太さを調整した²。

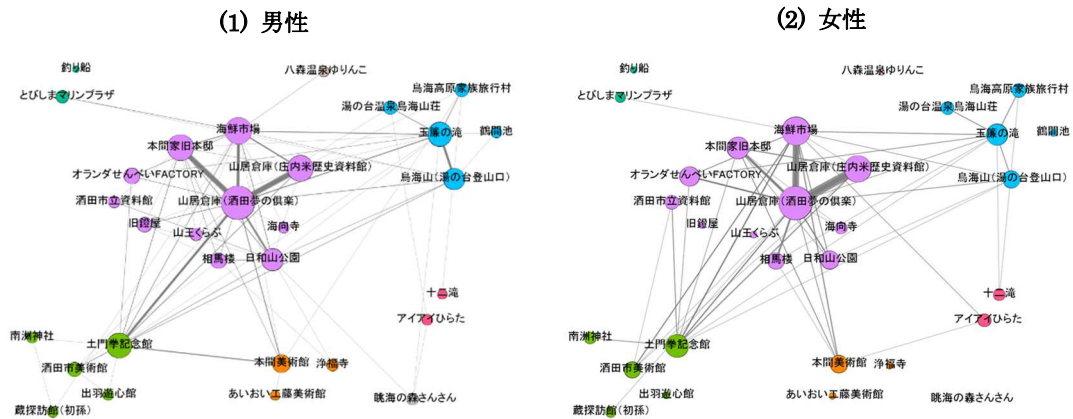
男女間での訪問ルートの傾向について大きな違いはみられないが、細かな部分ではいくつかの特徴がある。市街地エリアに位置する山居倉庫（酒田夢の倶楽）から同エリアの観光

² 厳密には、観光地 i を始点、観光地 j を終点とする辺 ij の移動を行った回答者の数を n_{ij} としたとき、各辺 ij のウェイトを $100n_{ij}/(\sum_{k,l;k \neq l} n_{kl})$ と定義した。

図表 3-11 全回答者の訪問ルート



図表 3-12 男女別の訪問ルート



地を訪れる割合について、女性の方は山居倉庫（庄内米歴史資料館）、海鮮市場、オランダせんべい FACTORY に訪れる割合が高い一方で、男性は本間家旧本邸と日和山公園を訪れる割合が高い。また、鳥海山エリアにおいては、男性の方が玉簾の滝と鳥海山（湯の台登山口）を訪れる割合だけでなく、その間を移動する割合も高い。さらに、川南エリアに目を向けると、わずかな差ではあるが酒田市美術館を訪れる割合は女性の方が高く、一方で土門拳記念館を訪れる割合は男性の方が高いことが分かった。駅前・寺町エリアの本間美術館を訪れる割合は男女間で大きな違いはないものの、女性は市街地エリアから、男性は川南エリア（土門拳記念館）から向かう傾向が強いことが特徴としていえる。総合すると、女性の方はグルメに関心があり、男性の方は自然や歴史に興味がある傾向があることがうかがえる結果となった。

また、同一エリア内での移動にも男女の間の違いが見られる。3つ以上の観光地が位置する市街地エリア、川南エリア、鳥海山エリア、駅前・寺町エリアの各エリアでは、男性の方が同一エリアの中での移動の割合が比較的多いことが見て取れる。一人当たりの訪問した観光地の数を見ても、男性が1.66か所/人、女性が1.48か所/人であり、男性が訪れる観光地の方が平均的に多いことを示している。

3. 4. 2 年齢別の訪問ルート

年齢別の訪問ルート選択の様子を図表 3-13 に示す。各辺の太さに対しては図表 3-12 と同様の調整をしてある。

各グラフを細かく比較すると、区分ごとに特徴が見受けられる。まず、最も顕著であるのは、年齢と本間家旧本邸を訪れる割合との関係である。10・20 歳代では他の観光地と比べても本間家旧本邸を訪れる割合は非常に小さかったにも関わらず、年齢があがるにつれてその割合は増加し、70・80 歳代では山居倉庫（酒田夢の倶楽）に次ぐ割合を占めるまでに至っている。また本間美術館、相馬楼、日和山公園についても、単調な増加とは言えないが、そこを訪れる割合は若年層よりも老年層の方が高い。

ちなみに、10・20 歳代から 50・60 歳代にかけて高い年齢区分になるほど移動のパターンが多様になっていく様子が見取れるが、10・20 歳代のサンプル数が少なく 50・60 歳代のサンプル数が多い（サンプル数が多いほど多様になりがちである）ことが影響している可能性があり、必ずしも年齢との関連を結びつけることはできない。同様に、10・20 歳代から 50・60 歳代まで年齢区分が上がるごとに辺が細くなっている場合（たとえば山居倉庫（酒田夢の倶楽）と山居倉庫（庄内米歴史資料館）の間など）についても、サンプル数が多くなるほど多様になり各辺が細く均質化していくことが影響している可能性がある。

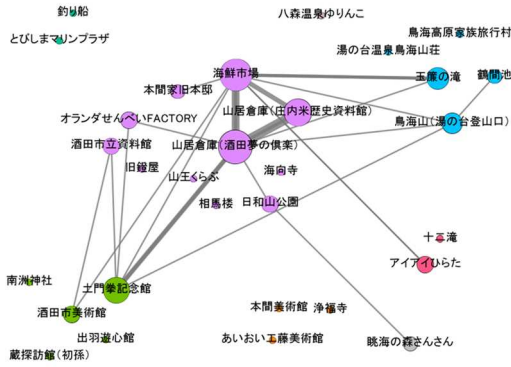
一人当たりが訪問する観光地の数は、10・20 歳代が 1.41 か所/人、30・40 歳代が 1.59 か所/人、50・60 歳代が 1.60 か所/人、70・80 歳代が 1.68 か所/人という結果になり、意外にも年齢が上がることに訪問する観光地の数が増加することが分かった。

3. 4. 3 世帯年収別の訪問ルート

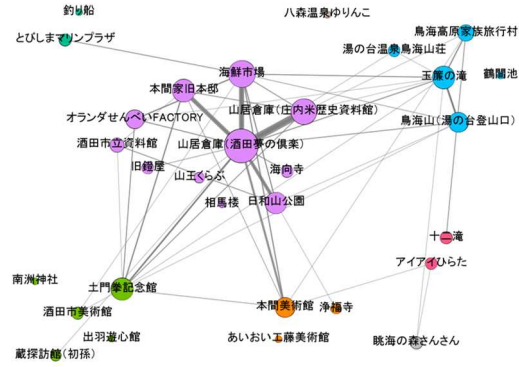
世帯年収別の訪問ルート選択の様子を図表 3-14 に示す。各辺の太さは図表 3-12 と同様の調整をしてあるが、世帯年収の区分は図表 3-3 に基づき回答者のサンプル数がおおよそ均等に

図表 3-13 年齢別の訪問ルート

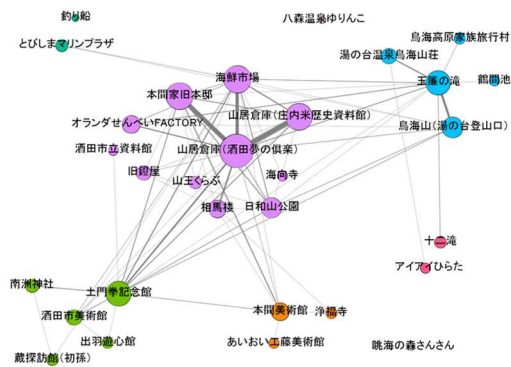
(1) 10・20 歳代



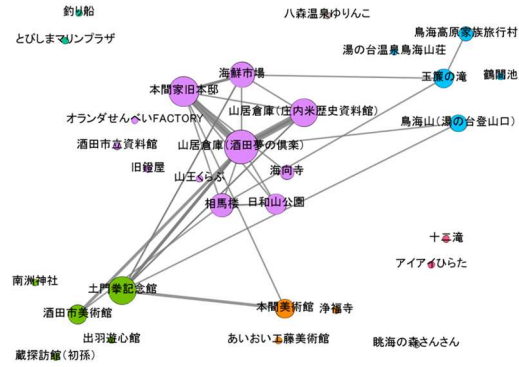
(2) 30・40 歳代



(3) 50・60 歳代



(4) 70・80 歳代

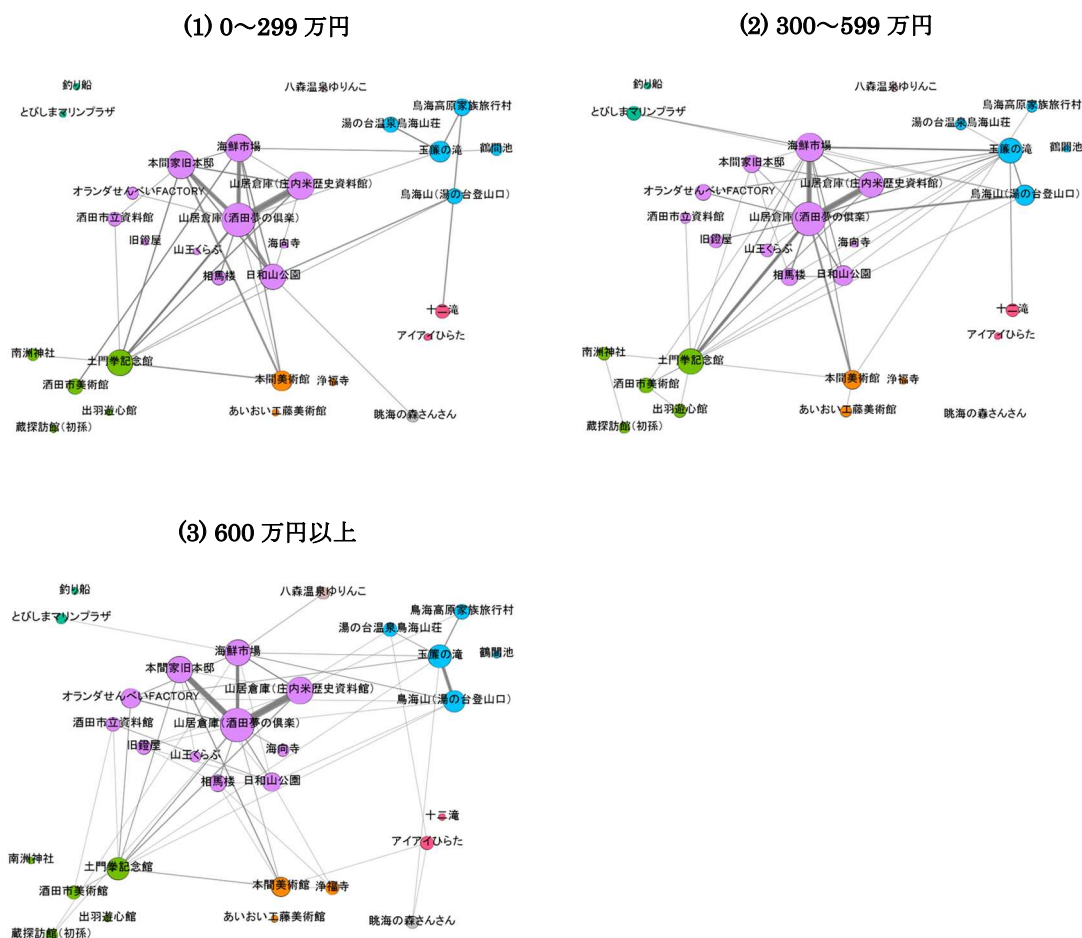


なるように配慮してあるため、前節のように区分間でのサンプル数の多寡が各辺の太さの違いにもたらす影響は小さいと考える。

0～299 万円の区分では、遠いエリアへの移動が少ないことが特徴の一つとして挙げられる。特に、鳥海山エリアや飛島エリアといった比較的遠方にある（そして相応の交通費がかかると思われる）エリアへ訪問する割合は、他の区分が極端に少ないと言える。それ以外にも、本間家旧本邸へ訪れる割合が高いだけでなく、本間家旧本邸と本間美術館との間を移動する割合が比較的高いことも特徴的である。

300～599 万円と 600 万円以上の区分では、先述した 0～299 万円の区分と比べて遠方への移動が多くなり、とりわけ 600 万円以上の区分において眺海の森エリア、平田エリア、八幡エリアへ訪問する割合が高くなっている。両区分の間での違いとしてもう一つ特徴的であるのが、鳥海山エリアでの移動である。300～599 万円の区分では市街地エリアから玉簾の滝と鳥海山（湯の台登山口）それぞれへの移動する割合がある程度ありながら、両者の間を移動する割合は少ない。それに対し、600 万円以上の区分では玉簾の滝と鳥海山（湯の台登山口）の間を移動する割合が特に多いのである。このことから、300～599 万円の区分の旅行者は玉簾の滝と鳥海山（湯の台登山口）の両方を訪れることが比較的少なく、訪れるとし

図表 3-14 世帯年収別の訪問ルート



てもどちらか一方のみにとどめる傾向が強いことが言えるのに対し、600万円以上の区分の旅行者はその逆でいずれかを訪れる際には両方とも訪れている傾向が比較的強いと言える。

顕著な傾向と認められる中でも、世帯年収に対して単調でない変化を見せるものは多く見受けられる。たとえば、本間家旧本邸を訪れる割合などはまさに最たる例である。0~299万円の区分においては高水準であった割合が300~599万円の区分では大きく低下し、600万円以上の区分では再び高い水準まで上昇している。また、一人当たりが訪問する観光地の数についても、0~299万円では1.63か所/人、300~599万円では1.53か所/人、600以上では1.66か所/人という単調でない傾向を示す結果が得られた。これらの事実に対していくつかの原因を考えることができるが、そのどれもが仮説の域を超えないため、ここでは述べない。

3. 5 旅行者の世帯年収と酒田市内での支出総額の関係

本章の最後に、次章に関連する事項として各旅行者の世帯年収と酒田市内旅行における

支出との関係を見ていく。アンケートの回答者の世帯年収別での酒田市内の旅行における支出額の割合を図表 3-15 に示す。支出額の算出に際しては、アンケートにおいて回答を求めた酒田市内旅行における「交通費」、「宿泊費」、「土産代」、「飲食費」、「入場料」、「その他」、「パック料金」の項目の回答を総計したものを酒田市内での支出額とした。また、上記項目の支出額を合計した総額が 0 円となる場合、空白扱いとした。その理由は、上記 7 つの項目別の支出額をすべて「0 円」と回答しているわけではなく、無回答が 0 円を意味しているのかそうでないのか判別できないためである。世帯年収を示す値「0」、「15000」、「45000」、「75000」、「105000」、「135000」は、図表 3-3 と同じくそれぞれ世帯年収の区分「0 円」、「1 円～299 万円」、「300 万円～599 万円」、「600 万円～899 万円」、「900 万円～1199 万円」、「1200 万円～」を表している。

図表 3-15 には、各支出額の区分ごとに特に高い割合である値に網掛けを施している（濃い方がより高い割合であることを示している）。一貫した傾向とまではいかないが、一見して世帯年収が高いほど支出額の高い区分が占める割合が高くなっていることが分かる。このことから、旅行者の世帯年収と酒田市内の旅行における支出額との間には若干の正の相関があると考えられる。

図表 3-15 世帯年収と酒田市内での支出額の関係

		酒田市内での支出総額								
		5千円未満	5千円以上1万円未満	1万円以上2万円未満	2万円以上3万円未満	3万円以上4万円未満	4万円以上5万円未満	5万円以上10万円未満	10万円以上	Total
世帯年収	0	45.45	18.18	36.36	0	0	0	0	0	100
	15000	40	10	20	2	6	4	12	6	100
	45000	39.83	18.64	17.8	9.32	4.24	1.69	6.78	1.69	100
	75000	30.95	25	14.29	4.76	5.95	5.95	11.9	1.19	100
	105000	34.38	34.38	15.63	0	0	0	9.38	6.25	100
	135000	29.63	11.11	7.41	3.7	11.11	7.41	14.81	14.81	100
Total		36.34	19.88	16.77	5.28	4.97	3.42	9.63	3.73	100

4 離散選択モデルに基づく回帰分析

本章では、前章における結果を踏まえ、酒田市に観光に訪れる人々の行動や属性が旅行の満足度にどのような影響を与えるのかを、離散選択モデルに基づいて分析する。

4.1 モデル

現実の個人の選択は連続的なものよりむしろ離散的なものが多く、本受託研究におけるアンケート調査でも回答者はいくつかの選択肢の中から1つ以上を選択することが求められている。とりわけ、酒田市への旅行の満足度は5段階評価の中から最も自分の気持ちに近い選択肢を選ぶものとなっており、これは順序を持つ離散選択モデルとして表現することができる。本節では、Train (2009) に基づき、モデルの概要を説明する。

個人が旅行から得る効用 U が次のように表されるとする。

$$U = \beta'X + \varepsilon$$

ここで、 X は個人の効用に影響を与える観察可能な要因のベクトル、 β はその要因にかかる係数のベクトル、 ε は個人の効用に影響を与える観察不可能な確率変数である。個人の効用水準は実際に観測することのできない潜在変数であるが、これを用いて離散的な選択を定式化することは可能である。個人の効用水準がある閾値 v_1 を上回るならば「大変満足」と回答し、効用水準が v_1 を下回るが閾値 v_2 を上回るならば「満足」と回答する。同様に考えると、満足度の選択は次のように表すことができる。

回答 = 「大変満足」 if $U > v_1$

回答 = 「満足」 if $v_1 \geq U > v_2$

回答 = 「普通」 if $v_2 \geq U > v_3$

回答 = 「不満」 if $v_3 \geq U > v_4$

回答 = 「大変不満」 if $v_4 \geq U$

個人が「大変満足」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(U > v_1) &= \Pr(\beta'X + \varepsilon > v_1) \\ &= \Pr(\varepsilon > v_1 - \beta'X) \\ &= 1 - \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) \end{aligned}$$

となり、「満足」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(v_1 \geq U > v_2) &= \Pr(v_1 \geq \beta'X + \varepsilon > v_2) \\ &= \Pr(v_1 - \beta'X \geq \varepsilon > v_2 - \beta'X) \\ &= \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) - \Pr(\varepsilon \leq v_2 - \beta'X) \end{aligned}$$

となる。したがって、 ε の分布によって選択確率が決まってくることになる。

観察不可能な ε が標準正規分布に従うと想定した場合、このモデルは順序プロビットモデルと呼ばれ、「大変満足」、「満足」と回答する確率はそれぞれ

$$\Pr(U > v_1) = 1 - \Phi(v_1 - \beta'X)$$

$$\Pr(v_1 \geq U > v_2) = \Phi(v_1 - \beta'X) - \Phi(v_2 - \beta'X)$$

で計算することができる。ここで、 $\Phi(\cdot)$ は標準正規分布関数である。これを他の選択肢についても適用し、係数 β と閾値 v_1, \dots, v_4 を最尤法で推定する。

4. 2 変数の選択

被説明変数には酒田市への旅行の満足度（調査票 Q12）を用い、3. 2節で説明されている定義と同じである。ただし、この満足度の指標は旅行全体の最終的なものではないことに留意が必要である。アンケート調査を実施している段階では、回答者にとっては旅行の途中であるため、回答者は調査地点までの旅程についてどれほど満足しているかを表明したと考えるのが自然である。

このことに注意すれば、説明変数には調査地点までの回答者の行動を用いるのが適切である。具体的には、回答者が調査地点までにどの観光地を訪問したかを表すダミー変数を用いる³。3. 4節で明らかになったように、酒田市を訪れる人は山居倉庫（酒田夢の倶楽）をハブとして、そこから市街地エリアのいくつかの観光地、さらには土門拳記念館（川南エリア）、玉簾の滝（鳥海山エリア）、本間美術館（駅前・寺町エリア）に足を運んでいる。このことから、各エリアで最も訪問者の多い観光地をそのエリアを代表する場所として、山居倉庫（酒田夢の倶楽）、本間美術館、土門拳記念館、玉簾の滝それぞれを訪問していれば1、そうでなければ0をとる変数を採用する。また、酒田市全体において市街地エリアが重要な役割を担っていることを考慮して、市街地エリアにおける他の主要な観光地（さかた海鮮市場、山居倉庫（庄内米歴史資料館）、本間家旧本邸、相馬楼、日和山公園、オランダせんべい FACTORY）を訪問したかどうかの影響も推定する。

旅行の満足度に影響を与える他の要因として、個人属性をコントロールする。具体的には年齢（調査票 Q16 の各区分の中間値）、性別（女性であれば1、男性であれば0）、世帯年収（3. 1節における定義と同じ）である。世帯年収の代わりに、より直接的な効果を持つと思われる支出額を用いることも考えられるが、ここではそれは行っていない。今回のアンケート調査では旅行の満足度が調査地点までの旅程についてのものであるのに対し、支出額は調査を受けた時点以降の予定額まで含まれているため、コントロール変数と被説明変数で対象期間が異なる事態は避けるべきであると判断した。今後は、すべての質問項目で時期の齟齬がないよう、調査対象者が帰宅後に郵送で回答する方法をとることが望ましい。

各変数の記述統計は図表 4-1 のとおりである。すべての変数についてデータが揃っているサンプルは 616 で、旅行の満足度を回答している全サンプル 806 に比べると少なくなって

³ 調査票 Q6 では調査地点以降に訪問する予定の観光地も尋ねているが、この情報は説明変数には用いない。

図表 4-1 記述統計

	平均	標準偏差	最小	最大
旅行の満足度	3.98	0.72	1	5
女性ダミー	0.38	0.48	0	1
年齢	50.13	14.49	15	85
世帯年収	57248.38	35785.29	0	135000
(実 際 に 訪 問 し た 観 光 地)				
山居倉庫 (酒田夢の倶楽)	0.33	0.47	0	1
さかた海鮮市場	0.23	0.42	0	1
山居倉庫(庄内米歴史資料館)	0.06	0.24	0	1
本間家旧本邸	0.04	0.20	0	1
相馬楼	0.04	0.20	0	1
日和山公園	0.02	0.14	0	1
オランダせんべいFACTORY	0.01	0.12	0	1
本間美術館	0.01	0.11	0	1
土門拳記念館	0.13	0.33	0	1
玉簾の滝	0.15	0.35	0	1

(注) サンプルサイズは616である。

いるが、変数の分布には大きな差はない⁴。

4. 3 分析結果

順序プロビットモデルによる推定結果は図表 4-2 のとおりである。訪問者が比較的多い市街地エリア、川南エリア、鳥海山エリア、駅前・寺町エリアのそれぞれを代表する観光地のうち、市街地エリアの山居倉庫 (酒田夢の倶楽) を訪れたことは観光客の満足度を有意に引き上げる。

さらに、市街地エリアの他の主要な観光地の影響を考慮しても、依然として山居倉庫 (酒田夢の倶楽) の効果は有意となることも明らかとなった。この結果は、山居倉庫が観光客にとって重要なハブの役割を担っているという前章の分析結果と整合的である。山居倉庫が酒田の街の発展を支えた歴史的遺産であるだけでなく、地元の食材を用いた軽食、庄内地域の土産物や産直販売が楽しめ、主要イベントの開催地となって県内外からの観光客を呼び込むこともできる。こういった多くの機能を山居倉庫が果たしていることが酒田市観光において大きな魅力のひとつとなっていると考えられる。

また、年齢は負で有意となり、比較的若い人々の方が満足度が高い傾向がある。このことは、これまでの観光政策を評価し、今後の政策を検討するうえで、どの年齢層をターゲットに据えるかということも無視できない要素であることを意味する可能性がある。

⁴ たとえば、全サンプルの旅行満足度の平均は 3.97、標準偏差は 0.71 である。

図表 4-2 順序プロビットモデルによる推定結果

	(1)	(2)
	旅行の満足度	
女性ダミー	0.0465 (0.0926)	0.0476 (0.0951)
年齢	-0.00991*** (0.00319)	-0.0113*** (0.00327)
世帯年収	1.89e-07 (1.28e-06)	6.68e-08 (1.30e-06)
実際に訪問した観光地	山居倉庫 (酒田夢の倶楽)	0.173* (0.0952)
	さかた海鮮市場	0.180* (0.105)
	山居倉庫(庄内米歴史資料館)	0.0298 (0.125)
	本間家旧本邸	0.159 (0.200)
	相馬楼	0.202 (0.212)
	日和山公園	0.446** (0.201)
	オランダせんべいFACTORY	0.188 (0.211)
		-0.251 (0.180)
	本間美術館	0.481 (0.598)
	土門拳記念館	0.397 (0.590)
	0.136 (0.136)	
玉簾の滝	0.172 (0.146)	
	0.0296 (0.132)	
	0.0799 (0.143)	
サンプルサイズ	616	616
擬似決定係数	0.011	0.016

(注) カッコ内は頑健な標準誤差である。

***, **, *はそれぞれ1%, 5%, 10%水準で有意であることを示す。

参考文献

Train, Kenneth E. (2009) *Discrete Choice Methods with Simulation*, Second Edition, Cambridge University Press.

5 政策提言

本章では、第3章と第4章の分析に基づき、酒田市における観光政策に対する提言を行う。本提言が、酒田市民所得の向上につながる地域振興に資することを期すものである。

酒田市での観光全体に対する満足度・再来訪意向を見る限り、リピーター客のみならず初めて酒田市を訪れた旅行者からも高い評価を得られており、酒田市の観光事業はおおむね好調であると言える。ただ、訪問回数が「6回」を超えたところから旅行者の割合が大きく減少していることを考えると、イベントやキャンペーンを開催する、あるいは、あまり広く知られていない観光地・観光資源を広報するなどといった形で、リピーター客を飽きさせない施策を講じる必要があるかもしれない。

4.3節では、各観光地に行ったグループと行っていないグループとの間で満足度の比較を行い、山居倉庫内にある酒田夢の倶楽と鳥海山の湯の台登山口のいずれかを通る訪問ルートを選んだ人々の満足度が平均的に高く、オランダせんべい FACTORY を通る訪問ルートを選んだ人々の満足度は他と比べて（平均的には違いはないものの）高い評価の方に集中しているという結果が得られた。この結果を施策に反映する場合には、「選択バイアス」に注意する必要がある。この分析では、あくまで当該観光地を通る訪問ルートを選んだ人々とそれを選ばなかった人々との比較をしているのであって、上記の結果は当該観光地だけでなく、それに併せて利用される傾向の強い観光地群に起因する可能性があると考えべきである。また、この結果を受けて、平均的に満足度の高い訪問ルートを積極的に推奨するのも早計である。酒田夢の倶楽や湯の台登山口に訪れていない旅行者は自ら行かない選択をしたのであり、彼らに無理にそれらを訪れさせたところで満足度を改善できる保証は、この結果からでは得られない。

とはいえ、上記の結果を施策に反映させる方法はある。ここでは、資金や人員を投じて各観光地の充実を図る際の優先順位を定める基準として用いる方法を紹介する。たとえば、山居倉庫内の酒田夢の倶楽およびそれに併せて利用される傾向の強い観光地群と、海鮮市場およびそれに併せて利用される傾向の強い観光地群との間では、この結果を見る限りでは相対的に満足度の高い前者よりも後者を優先的に充実させるべきと判断するのが適当である。ただ実際には、一方の利用者数が極端に少ない、特段に高い費用がかかるなどの理由によって判断を変えざるをえない状況もあるであろう。投資による費用対効果を求める際には今回の分析結果に限らず様々な要素を判断材料に用いる必要があるが、その中においても今回の分析を通して得られた結果は重要な位置を占めるものと考えられる。

また、「選択バイアス」に関連して、仮に訪問者の満足度が高い観光地があった場合、そこに行かなかった旅行者がその観光地を訪れたところで満足度が改善されるとは限らないと述べたが、それでも実際にその地を訪れることによってその魅力を気付く可能性はあるはずである。旅行者各自が興味を持った観光地を巡る訪問ルートの中に、興味の外にあったはずの観光地を自然に組み入れることのできるきっかけ作り（スタンプラリーなど）をする

ことは各観光地のみならず酒田市全体の魅力を再認識してもらふ施策として有効であると考える。

4. 4節では、グラフと呼ばれるネットワーク構造を記述する手法を用いた訪問ルート分析により、旅行者は市街地エリアを中心に各エリアにアクセスしていること、中でも山居倉庫（酒田夢の倶楽）が酒田市内の旅行においてハブのような役割を担っていることが明らかとなった。この結果は個人の離散選択モデルに基づいた計量分析（5章）によっても支持され、個人属性をコントロールしてもなお、山居倉庫（酒田夢の倶楽）に訪問したことは旅行の満足度を有意に引き上げる。酒田市内において、山居倉庫という観光資源が一般に考えられている以上に重要な役割を果たしていることが示されたのは大きな発見である。酒田市における山居倉庫の位置づけをより明確にしたうえで、そこからさらに周辺エリアへの移動と宿泊につながるような観光ルートの提案が求められる。

それに加えて、旅行者の性別、年齢、世帯年収によって各観光地の訪問や比較的遠いエリアへの移動などといった訪問ルートに関する傾向の違いが見られることも示された。このような傾向の違いが見られるのは上記の要素ばかりでなく、居住地域や同行者の人数、またインバウンドなども視野に入れるのであれば国籍や宗教的信条によっても訪れる観光地やルートの取り方などによっても傾向が異なる可能性があり、さらに近年では、インターネットおよび SNS の普及に伴い旅行者の観光ニーズは今後ますます多様化していくものと予想される。

こうした多様化する観光ニーズに対し、それらすべてに配慮した施策を行うことはできるかもしれない。しかし、そのような方針を実現するためには、実態調査や効果測定などをはじめとする緻密な情報分析と潤沢な資金が必要となる。これらが満たされない状況であれば、特定の性別、年齢、世帯年収にターゲットを絞って、今回の調査のような情報分析によって明らかとなるターゲットの選択しがちな訪問ルートを重点的にフィーチャーするような施策を実施することも一つの有効な手段であると考えられる。